

活気あふれる2日間 「子ども霞が関見学デー」

霞が関の各省庁が様々なブースを用意し、夏休み中の子どもたちに広く国の仕事について理解を深めてもらう「子ども霞が関見学デー」が今年も8月1日～2日に開催されました。

農林水産省の来場者数は過去最高の7,246人で、参加府省庁の中で1位となりました。

林野庁が毎年開いている「大好きな人へ木のはがきをおくろう！」に



林業の仕事についてわかりやすく解説した「お山ん画」や樹木漫画の「リン子の絵日記」のパネル展示も行われ、はがき作りに参加した子どもたちはもちろん、他の来場者も興味深そうに眺めている様子でした。普段はなかなか馴染みのない森林での仕事や樹木の知識にふれる貴重な経験となったようです。

は今年も多くの子どもたちが参加してくれました。スギ、ヒバ、ヒノキ、カバの4種類のツキ板で作られたはがきから1種類を選び、スタンプやクレヨン等でそれぞれが自由に思い描くはがきを作ってもらいました。樹種ごとの香りや木目の違いに驚き、「どのはがきにしようかな、誰に送ろうかな」と目をキラキラ輝かせながら選んでいました。

また、林業の仕事についてわかりやすく解説した「お山ん画」や樹木漫画の「リン子の絵日記」のパネル展示も行われ、はがき作りに参加した子どもたちはもちろん、他の来場者も興味深そうに眺めている様子でした。普段はなかなか馴染みのない森林での仕事や樹木の知識にふれる貴重な経験となったようです。

昨年に引き続き、「いろいろなきのこにふれてみよう！」と題して、特用林産物であるきのこのPRを実施しました。原木から生えているしいたけや、まただけ・ぶなしめじといった普段の食卓でおなじみのきのこを菌床ごと展示し、子どもたちに自由に触ってもらいました。きのこがぎっしりと生えている様子は興味深かったようで、親子で顔を見合わせ、驚きながら、いろいろなきのこに触れていました。

乾しいたけを小さなおたまですくう乾しいたけすくいも実施しました。子どもたちは真剣な表情で、乾しいたけをなるべくたくさんおたまに乗せようと奮闘していました。恒例の



きのこ総選挙では、展示されたきのこをみて触って、好きなきのこに投票してもらいました。今年もなめこがトップとなり、2位はえのきだけ、3位は同数でした。きくらげとになりました。

この日、持ち帰った乾しいたけを使って食卓を囲み、きのこに触れた体験を話題に、家族団らんしたのでないでしょうか。





「森林で働く機械を動かしてみよう」と題したブースでは、立木の伐採を行う林業機械であるハーベスタの職業訓練用シミュレーターを使った体験イベントを開催しました。子どもたちは、大型のディスプレイ上に映し出された木を切り倒し、一定の長さで切り揃える作業に、初めは四苦八苦していました。すぐにコツを掴み、現場さながらの木材生産作業を楽しく体験していました。将来の林業オペレーターになってくれることを期待しています。



初出展の「森林について楽しく学ぼう！」では、ネームプレート作成、紙芝居、ジオラマへの緑化体験、森林〇×クイズという4つのプログラムを実施しました。ネームプレート作成では、色や形の違う輪切り丸太の中から、気に入った木を選び、スタンプやマジック等を使って、思い思いのプレートを作成してもらいました。紙芝居では、海岸林の大切さや、東北の海岸林の再生へ向けての継続的な支援の重要性について学んでもらい、子どもたちは出題される問題にも真剣に答えました。



ほかのプログラムも多くの子どもたちが参加し、楽しみながら森林の大切さや楽しさについて学んでもらいました。

森ずきんちゃんが第70回全国植樹祭（愛知県）をPR